

産業
情報

いわて

Industry
Information
Iwate

2019.7

VOL. 196

[公財]いわて産業振興センター広報誌

特集／キラリ輝く★いわての企業

やぶ屋

中心市街地に再建した

三代目を守る地域のそば屋

センターのプロフェッショナル紹介／6

岩手のチャレンジャーたち／6

加速器総会開催／7

いわてマルシェ開催／7

メディカルショーへ出展／7

管理会計講座開講／7



落ち着いた和風の店内。通り沿いのカウンター、テーブル席、座敷が並ぶ



それぞれの担当をてきぱきこなしていく厨房

中心市街地に再建した 三代目を守る地域のそば屋

陸前高田市／やぶ屋

震災という試練を越えて

昼時の店はいつも混雑している。小さな親子連れ、老夫婦、作業着やスーツ姿のサラリーマン。特別な昼ではなく、いつもの昼だ。気負うことなく、客がくつろいで、そばをすすむ。2年前にやぶ屋三代目店主及川雄一さんは中心市街地にこの店をオープンさせた。自身は厨房でそばを、母親の従子さんが天ぷらを担当している。叔母やいとこも手伝ってくれている。

人気メニューは、天ざる、天ぷらそば、ざるそばで、夏には冷やしたぬきが

よく出るという。メニューで驚くのは、半サイズの多さだ。調理する数は増え、年配客は半サイズで済ませる人もいる。「だからといってやめるわけにもいかない」と及川さんは笑う。もともと半サイズは客の要望で用意したのだ。実際、普通サイズのかつ丼は注文が少ないうちに、半分だとよく出るのだという。



二代目の域にはまだだというものの、カラリと揚げた母従子さんの天ぷらは評判

必然に迫られた営業時間

営業時間は11～15時のお昼だけ。昼間の客の途絶えない状態と、限られた従業員で営業を続けるには現在のスタイルがベストとなった。

「店が本設になったら夜もするつもりでした。そうすると仕込みもいれると、12時間は働くことになります。従業員も少ないので交替もできないし」と及川さん。先代のころは店舗兼住宅だったため、営業時間だけでも11時間働きづめだった。いまは、住居も復興住宅住まいになったため、子どもだけにし

ておくわけにいかないという事情もあり、必然的に営業時間が短くなった。

東日本大震災から復活

創業58年。祖父は水沢のやぶ屋に勤めており、本店花巻店の許可を得てのれん分けで始まった店は現在の店舗よりやや離れた場所にあった。祖父、父と3代が厨房に立った時期もある。被災後は、再開のめどもたたぬまま、祖父のタレの配合を、来たるべき日のために、メモに残した。

その後客の声にも押され、及川さん親子は震災の翌年、仮設店舗で営業を開始した。それが復興商店街・栃ヶ沢ベースだった。現在軒を連ねる「いわ井」さんもこの商店街にいた。



息子がつくるそばと、母の天ぷら。祖父から受けつぐ秘伝のタレで味わう、天ざるのおいしさは家族の力

釜など、厨房の道具類も、譲ってもらえるものはもらってスタートした。お客さまがくつろげるよう、プレハブでも中はそう見えない空間づくりに気を配ったという。書き留めた秘伝のタレも復活した。「じいちゃんが高田に来たころにつくった味をついでいます。少し甘めのタレが人気なんです」と及川さんは目を細めた。

新しい場所で歴史を刻む

流された店の資産には国のグループ補助金を使えるが、やぶ屋は、以前の店が借家だったため建物が対象外で、さらに自己負担が必要となるため本設が難しかった。しかし、仲間と立ち上げた合同会社ベースが土地と建物を用意し、内装をそれぞれ行うスタイルになり悩みも解決した。この音頭取りをしてくれたのが、「いわ井」の磐井正篤さんだった。かくして5事業者が集結、コンサル会社のプランをもとに、みんなでデザインなどを決めて

いった。

店を長く続けられるのは、お客と地域との信頼関係の積み重ねの上にある。各お店の切り妻の壁には、創業年が堂々と刻まれている。先代の味を受け継ぎ、やぶ屋は、この新しい場所で、また10年、20年と歴史を刻んでいく。

代表メッセージ

多くの店が集まり、駐車場があって、近所にはいい図書館もできて、商売としてはとても条件のよい場所で店を再開できました。今後、まち自体の人口も減っていくでしょうし、大変だとは思いますが、地元のお客さんもいるのでせっかく続いてきたお店を、できれば次の時代に残したいとは思っています。



動画でキラリ
会社訪問



店主 及川 雄一

陸前高田市出身。先代は金ヶ崎出身だった。趣味は特になく、まだ小学生の子どもとゲームをしたり、一緒に遊ぶのが楽しみだという。休みの日は寝ていることが多いと語る。

ー 再建までの歩み ー

Voice
及川 従子



新店舗実現に向けての想い

制度を活用したことで、代々残してくれたものが、復活できてよかったと思っています。お店が再開できないと、お父さんにも申し訳がないと思って、夢我夢中でできました。息子はたいへんだったかもしれませんが。これしかないからと、だから店をまたやろうと決めたんです。いまは従業員も増えてきて良かった。なんとかこのまま続けば最高ですね。

平成23年3月 東日本大震災により店舗兼自宅を流出

平成24年4月 復興商店街「栃ヶ沢ベース」へ仮店舗オープン

平成28年9月 合同会社ベースを5事業者で設立

平成29年10月 まちなかテラス内に新店舗オープン

仮店舗当時



震災の翌年、国道340号沿いにある復興商店街栃ヶ沢ベース（陸前高田町字栃ヶ沢）にて仮店舗で営業を再開しました。

現在のやぶ屋



震災から6年後、かさ上げの終わった中心市街地にある、まちなかテラス内の一角に本設の新店舗をオープンしました。お昼時は平日もお客様で賑わっています。

5事業者が集まっているまちなかテラス

まちなかテラスは平成29年、陸前高田市の中心市街地にオープン。10月に4店舗、平成30年4月に1店舗がオープンした商店街スタイルのエリア。名前の由来は「まちなかを照らす」から。

向かって左から、器・和雑貨・地酒 いわ井／やぶ屋／中華食堂熊谷／美容室ZEN まちなかテラス店／パティスリーKankyu(菅久菓子店)



店のシルエットのバッジも作成



企業DATA

会社名	やぶ屋	沿革	昭和36年／初代が陸前高田市馬場にやぶ屋オープン	従業員	9名(パート含)
代表者	及川 雄一		平成23年／東日本大震災津波により店舗流出		
業種	飲食店		平成24年／復興商店街栃ヶ沢ベース仮店舗オープン		
工場	陸前高田市高田町字馬場前73 陸前高田まちなかテラス内		平成29年／まちなかテラスに新店舗オープン		
電話	0192-55-2053				

やぶ屋

まちなかテラスの声

仮設店舗時代の商店街「栃ヶ沢ベース」での経験から、小さい商店街でも活気がある場所には人が集まることを感じ「まちなかテラス」を始めました。震災後の何もない状況下で「やぶ屋」の及川さんと夢や仕事への思いを共有したとき、この人と仕事がしたいと思いました。「まちなかテラス」への参加を提案した際、「本設店舗でも一緒にやろう」ということになりました。

今後は、もし店舗が変わるとしてもシャッター街にはなりにくく、新しい事業者が入ってくるような新陳代謝の良いテラスにしたいです。時代が変わっても街の中心にある、世代を越えて人々が集まる場所にしていきたいですね。



合同会社ベース 代表社員 いわい せいとく
(株)いわ井 代表取締役 磐井 正篤

合同会社ベースを5事業者で立ち上げる。現在はまちなかテラスの(株)いわ井にて代表を務めながら、地域の復興に向けた取組を行っている。

住所：〒029-2205
岩手県陸前高田市高田町字馬場前73
陸前高田まちなかテラス内
TEL：0192-55-2912
FAX：0192-55-2017
E-mail：iwai@fine.ocn.ne.jp

センター事業"岩手県被災中小企業施設・設備整備支援事業"を活用

やぶ屋様の 貸付事業を利用し、本設・再開へ

仮店舗から本設に向け、当センター事業である岩手県被災中小企業施設・設備整備支援事業(高度化スキーム貸付事業)を利用していただきました。具体的には、合同会社ベース様には共同店舗の建設資金を、やぶ屋様には設備資金を融資させていただきました。

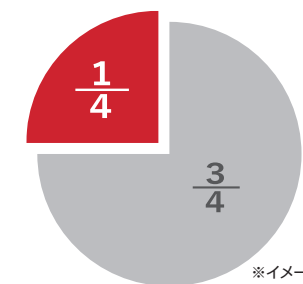
【高度化スキーム貸付とは】

岩手県では、東日本大震災の津波により被災された本県中小企業等グループの施設・設備の復旧・整備を支援するため、「岩手県中小企業等復旧・復興支援補助事業」(通称:グループ補助金)を実施しています。

当センターが実施する高度化スキーム貸付では、上記のグループ補助金が認定された各事業者が施設・設備の整備を行う中で、その補助金で賄われなかった事業費を長期・無利子で貸付を行います。

平成31年3月末現時点において、高度化スキーム貸付の利用件数が314件、貸付金額が130億円余りの利用実績となっています。

●お問い合わせ
産業復興支援室 TEL：019-631-3821



■ 高度化スキーム貸付 ■ グループ補助金

復興事業計画に基づく事業費のうち、グループ補助金で賄えなかった部分について高度化スキーム貸付を利用できます。

≫ センターのプロフェッショナル紹介

専門知識を活かし、活動していただいている当センターのアドバイザー、コーディネーターをシリーズでご紹介します。

チーフコーディネーター
 星野 剛

茨城県日立市出身。国内大手精密機器メーカー(株)キーエンスの勤務を経て、平成28年度から、よろず支援拠点チーフコーディネーターとして活躍。盛岡市在住。



▶ よろず支援拠点について教えてください。

中小企業庁が全国に設置しているビジネスコンサルファームのことで、県内で活躍する専門家10数名のコーディネーターが県内企業や個人事業者のご相談に対応しています。

▶ どのような相談に対応していますか？

起業や新事業の立ち上げ、売上の向上、資金繰り、人手不足の解消など、年間5千件を超える様々なご相談に対応しています。金融機関等の協力により県内各地で相談会も開催しています。

▶ よろず支援拠点の特長は何ですか？

事前予約があれば簡単に何度でも無料で相談でき、各分野の若手専門家が連携して対応していることです。相談者は常に課題を抱えて来ますので、同じ目線でいかに企業の良さを引き出すかを心がけています。

▶ 岩手の印象と今後の抱負を教えてください。

岩手の人は、皆、人柄も良く、食べ物も美味しい。歴史・文化も豊かで、住むなら岩手と思って家族で移り住みました。

ただ、PR下手な企業が多くもったいない。もっとビジネスを上手に展開していけるようお手伝いしながら、全国的にも有名な県内企業を増やしていきたいと思います。

≫ 岩手のチャレンジャーたち

新たな事業に取り組む企業関係者をシリーズでご紹介します。

株式会社ヘラルボニー(花巻市)

兄が自閉症という障がいを持って生まれたことをきっかけに、弟である双子の兄弟が感じた経験をもとに昨年7月に設立した会社です。今年度からスタートした「全日本仮囲いアートプロジェクト」は評判を呼び、複数の取引に発展。知的障がいのある方のアート作品を建設現場の仮囲いのデザインとして有料で提供し、企業のSDGsへの貢献や障がいのある方の賃金格差向上に役立っています。



自由で革新的なアートが幅広い人達の目に触れることで、彼らの活躍の場が増え、偏見・差別・賃金格差解消のキッカケとなるのではないかと、夢は膨らみます。

株式会社ヘラルボニー

岩手県花巻市東宮野目1地割2番地 平成30年度よりファンド事業をご活用。

● いわて希望応援ファンドに関するお問い合わせ 物産振興担当 TEL: 019-631-3823

≫ ニューストピックス

センターに関連する取り組みやイベント、報告など最新のニュースをお知らせいたします。

加速器総会開催



令和元年度いわて加速器関連産業研究会総会が6月6日にアートホテル盛岡にて開催されました。今年度も引き続き、国際リニアコライダーに関連するセミナーや技術講習会、視察等の活動を行う予定です。

● お問い合わせ 産学連携室
TEL: 019-631-3825

いわてマルシェ開催



5月30日からの6日間、川徳7階にて第2回いわてマルシェが開催されました。県内からは53社のメーカーが出展し、地元で愛される旨いもの・いいものを一堂に集めた名物揃いの賑やかな市場となりました。

● お問い合わせ 物産振興担当
TEL: 019-631-3823

メディカルショーへ出展



大阪で6月13日からの3日間、医療機器関連産業が出展する「第94回メディカルショー・ジャパン&ビジネスエキスポ2019」が開催され、延べ6,395人が来場しました。県内からは2社が出展し、多くの医療機器関係者にPRできる場となりました。

● お問い合わせ 取引支援・産業集積担当
TEL: 019-631-3822

管理会計講座開講



当センターの企業連携アドバイザーである伊藤洋氏を講師に迎え、5月24日に管理会計入門講座を当センターにて開講しました。管理会計講座は初の開講でしたが、県内から19人の受講者が参加され、決算書の仕組みから管理会計の基礎までを学びました。

● お問い合わせ 経営支援・産業人材担当
TEL: 019-631-3824

設備導入を支援します

長期	3年～10年
低利	年1.3%～1.7%
無担保	金融機関融資と別枠
貸付 限度額	100万円～1億円(消費税込)
保証金	貸与額の10%(最終償還時に返済)
連帯 保証人	法人の場合：代表者1名 個人の場合：不要

県内中小企業が必要とする機械、設備をセンターが購入し、長期・低利で貸与する公的な制度です。
生産性向上等を目的とする設備の導入を支援いたします。

● お問い合わせ 設備貸与担当
TEL：019-631-3821

受発注取引をマッチング支援します

支援対象企業

自動車・半導体・医療機器・IT・アパレル関連企業
(※受注は県内企業に限ります。)

マッチング支援内容

- ① 受発注の可能性がある企業へ、電話・メール・FAX等でご提案します。
- ② 受発注企業訪問に当センター職員が同行可能です。
- ③ 首都圏ものづくり発注企業等との受発注取引商談会を開催します。(年2回)

各種取引支援担当メニューがございますのでお気軽にご相談ください。

● お問い合わせ 取引支援担当
TEL：019-631-3822

奨学金返還を支援します

助成額	最大250万円
低利	就業1年目から奨学金返還額と同額を助成
募集人員	50名程度
募集期限	令和元年10月21日(月)

岩手県内の将来のものづくり産業を担う高度技術者の確保・定着を促進するため、理工系学生が大学等を卒業後、又は既卒者がU・Iターンし県内ものづくり企業に一定期間就業した場合に、奨学金の返還支援を行います。

- 詳細は、いわて産業人材奨学金返還支援制度のHPをご覧ください。
検索ワード：いわて奨学金返還

● お問い合わせ 経営支援・産業人材担当
TEL：019-631-3824

賛助会員募集中です

年会費 一口20,000円

会員特典

- ① 広報誌「産業情報いわて」の定期送付
- ② 取引商談会の参加料割引
- ③ 経営管理者向け研修会の参加料割引
- ④ 社内研修用のDVD貸出送料無料

センターの事業は、国や県からの補助・委託事業によって運営されていますが、使途が限定されるため、県内企業の皆様の賛助会費によって、事業費を補てんさせていただいております。

県内企業の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

● お問い合わせ 総務企画担当
TEL：019-631-3820